

名前 ()

※適宜、授業に合わせて書き込んでください。既に作成している枠のサイズくらいを上限だと思ってください。

最終的に授業の最後に、ワークシートを提出してもらいます。(提出締切あり)

課題 1 の問 1 ・問 2 の詳細は二ページ目に記載しています。

課題 1 (問 1)

課題 1 (問 2)

課題 2

【今日の感想】

[重要]課題 1 の問1・問2の内容詳細について

配布した資料を読んだ上で、以下の3点に教えてください。分量としては、A4用紙一枚に収まる程度の量で構いません(Wordの初期設定のレイアウトを想定しています。)

問1

無着成恭の『山びこ学校』の実践は、本資料の1~3ページに記載した、1947年の学習指導要領における社会科の理念を具体化していると思いますか？もしくは、理念とは、異なるものになっていると思いますか？あなたの意見を書いてください。

問2

実は、無着の『山びこ学校』の実践に対して、「ムチャクチャカリキュラム」だと批判する人もいました。その背景には、無着の実践が、あらかじめ指導者の側の計画を用意したものではなく、その場その場で生徒の問題意識や周りで起こる出来事を尊重・反映して授業を進めたことにあります。実際、この実践を行った当時の無着は、この実践こそが「ほんものの教育」だと捉えていました。しかし、そのような考え方に対して、学問としての繋がりや構造(系統性)の弱さが指摘されたのです。

結果的に、その後の無着は、教科内容の学問的な系統性を強調した授業を提案し、自身の授業スタイルを変更していくこととなります(詳しくは来週の授業で扱います)。一方で、この無着の変化に対して、大槻健(1984)は「無着はそれによって従来の弱点をのりこえようとしたのだが、『山びこ学校』にみられる子どもの活きた眼、科学的には未熟だが、現実を自らの力で乗り越えようとした主体的意欲の育成は必ずしも貫徹されていない。」と評価しており、今なお、これは論争的な点と言えます。

そこで皆さんには以下の「意見1」か「意見2」のいずれかの意見を選択して欲しいと思います。

意見1

無着の『山びこ学校』の実践を読んで、学問の系統性(学問的な順序に基づく学び方)をもう少し重視すべきだと思う。

意見2

無着の『山びこ学校』の実践を読んで、仮に学問的な系統性が弱くても、これこそがほんとうの学びだと思う。

「意見1」「意見2」のいずれかの意見を選んだ上で、あなたがその意見を選んだ理由についても述べて下さい。もちろん、この答えに正解はありません。

今回の授業では、レポートの2点目と、特に3点目の論点について議論したいと思います。(その際は、他の関連資料なども配りながら、掘り下げていきたいと思っています。)

※なお、資料の内容が難しいと感じた人や、資料の内容をもっと詳しく知りたいと感じた人は、いつでも斉藤まで連絡をしてください。